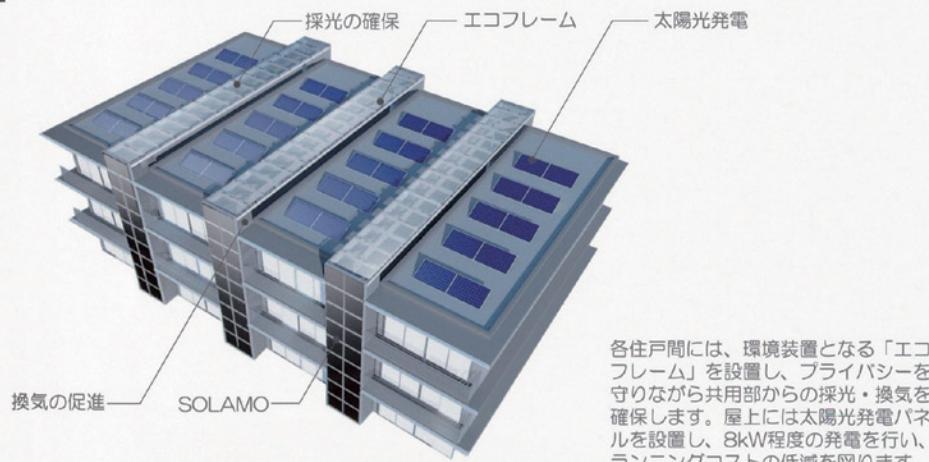


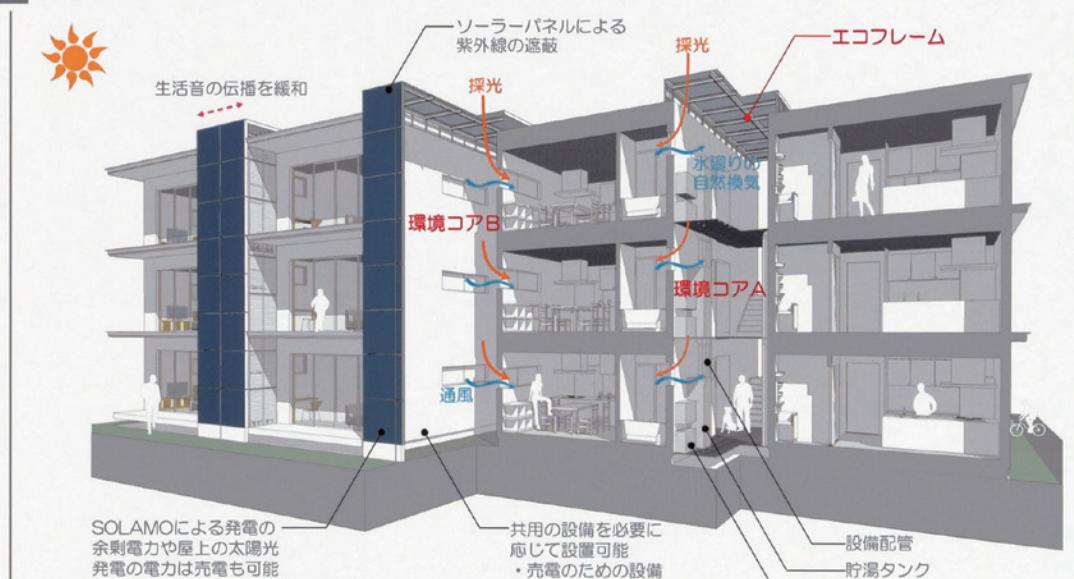


各住戸間に「SOLAMO」と一体の環境装置「エコフレーム」を設けることで、良質でサステイナブルな居住環境を作り出します

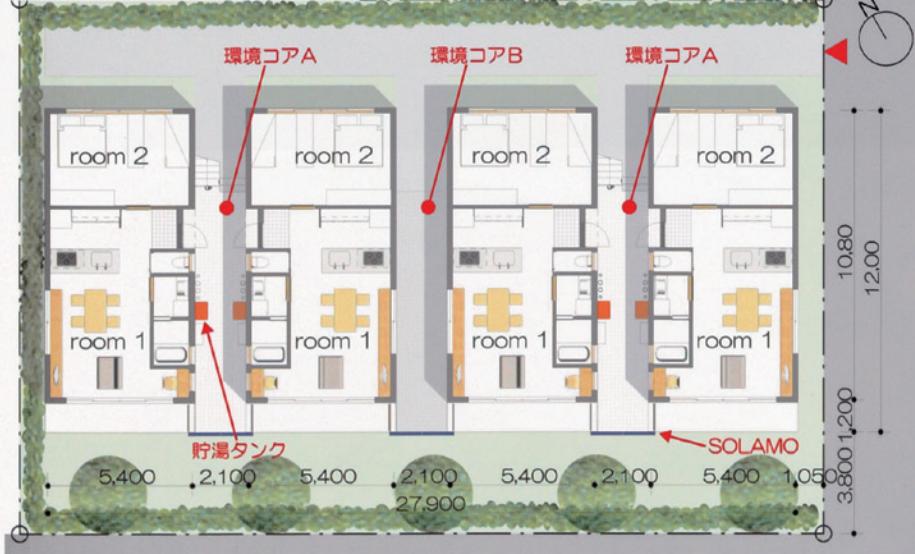
1 烏瞰パース



3 良質な居住環境



2 配置計画兼1階平面図 1/200



各階に4住戸を計画し、各戸間に挿入された「エコフレーム」の内部を「環境コア」として利用します。

「環境コアA」は階段室を内包し、各戸へのアクセス路となり、また各戸の設備機器置き場となります。採光・通風のため、グレーチング製の床を架ける計画としています。

「環境コアB」は吹抜け空間で、地上レベルに屋上太陽光発電の付帯機器など、共用の設備類を置きます。

◆エコフレームが良好な住環境を提供します。

- 環境コアを介して、各戸とも4方向からの採光・通風が可能になります。水廻りも自然換気ができる気持ちの良い環境を作ります。
- 環境コアがバッファゾーンとなって隣戸間の音の問題を緩和し、住戸をより住みやすくなります。

◆エコフレームが建物の長寿命化に寄与します。

- 太陽光の直射や風雨に晒されにくい環境コアに屋外の設備機器を置き、機器の劣化を防ぎます。

SOLAMO貯湯タンクや各戸の空調室外機などは環境コアAに、共用の機器は環境コアBに設置します。

- 設備配管類は環境コアに敷設します。メンテナンスや更新が容易になり建物の長寿命化に繋がります。

4 サステイナビリティ



「エコフレーム」を設けることで、建物をサステイナブルで陳腐化しないものにします。

- 設備に頼り過ぎない良質な居住環境を軸体ベースで確保しています。
- 年々改良され開発される設備機器を時代に応じて採り入れ効率良く使ってゆけます。

例えば「エコフレーム」に設置する太陽光パネルは、将来SOLAMOが改良された時に交換することも想定しています。あるいは太陽光パネルの代わりに緑化パネルを設置することも想定できます。また、社会の高齢化がより進行した際には「環境コア」に住宅用エレベーターを設置することも考えられます。

このように「エコフレーム」は軸体と設備の双方を将来にわたって有効に使い続けてゆくための、時代の変化をできる限り柔軟に受け入れるための装置です。